



ボム・ザ・システム

「BOMB THE SYSTEM」

- スプレー缶を買うな
- キャンバスを使うな
- 正体をバラすな



それが、ライターの掟

描け BOMB!! オレらの存在を。



「ワイルドスタイル」('82)の衝撃から20年。
リアルなユース・カルチャーを描いたグラフィティ・ムービーが再び日本に上陸する。

A DROPS ENTERTAINMENT PRODUCTION "BOMB THE SYSTEM" MARK WEBBER JACLYN DESANTIS JADE YORKER AL SAPIENZA BONZ MALONE
JOEY DEDIO STEPHEN BUCHANAN KUMAR PALLANA LEE QUINONES AND GANO GRILLS CASTING DIRECTOR CAROLINE SINCLAIR COSTUME DESIGNER HARWOOD LEE PRODUCTION DESIGNER JON NISSENBAUM
MUSIC SUPERVISOR BARRY COLE SOUND DAVE PATERSON MUSIC AND ORIGINAL SCORE BY EL-P CINEMATOGRAPHER BEN KUTCHINS EDITED BY JAY RABINOWITZ, A.C.E. EXECUTIVE PRODUCERS KANWAL REKHI MARK WEBBER
CO-EXECUTIVE PRODUCER ROB BETHGE CO-PRODUCERS SMRITI MUNDHRA THEO SENA PRODUCED BY BEN REKHI SOL TRYON WRITTEN AND DIRECTED BY ADAM BHALA LOUGH

R-15

www.bombthesystem.jp



MC、DJ、ブレイクダンス、 そして“グラフィティ”

▼“グラフィティ”とは、街中にスプレーで思い思いのデザインや主張をペインティングする落書きアートのこと。MC、DJ、ブレイクダンスと並ぶ、ヒップホップ・カルチャーにおける4大要素のひとつである。法の目をくぐって絵を描き、やがては権力によって消されていく“アート・クライム”（芸術犯罪）。このグラフィティ



に自らの存在証明を賭ける、ストリートの若者たちを描いた、鮮烈な青春映画の傑作が登場した。ヒップホップ・カルチャーを扱った劇映画はたくさんあるが、ここまでグラフィティを中心に据えた作品は、ヒップホップ映画のバイブルとして伝説化している『ワイルド・スタイル』（82年）と『ビート・ストリート』（84年）以来、実に20年ぶり。しかも80年代当時のNYでは、地下鉄の車体や駅のプラットフォームがグラフィティの舞台だったが、現在ではよりアンダーグラウンドな都市の闇部へと場所を移し、シーンの様子も一変している。

描け!! BOMB!! オレらの存在を。
—スプレー缶を買うな
—キャンバスを使うな
—正体をバラすな
それが、ライターの掟

舞台は、ニューヨーク。プレストの異名を取る19歳の白人青年アンソニーは、ローカル・シーンで最高の評価を受けているグラフィティ・ライターだ。彼はNY市警のヴァンダル・スクワッド（落書き取り締め班）のしつこい追跡をかわしながら、毎夜ハンドスタイルで街中の壁に向かい、見事なアートをモノにする。だがクルー（仲間）の逮捕をきっかけに、NY市警との衝突が激化。事態は予想のつかぬカオスへと展開し、プレストはひとつの決断を迫られる……。



パターン化された最近の商業映画のスタイルを打ち破り、現在進行形のグラフィティ・カルチャーにインスパイアされた映画をバラ・ラフは作り上げた。新鮮なカメラ・アングル、強烈な色彩、革新的な編集などがうまくブレンドされ、変な計算からは生まれない個性的な作風を見せてくれる。出演者たちの演技も力強く、特に主人公のマーク・ウェバーは、どの場面でもビタリと映像にハマっている。「ボム・ザ・システム」にはグラフィティ・アートの精神が今も生きている！ 微妙なニュアンスに満ちたスタイル、ダイナミックな表現力が、この映画では輝いているのだ。
ジム・ジャームッシュ（映画監督）

ヒップホップを題材にした 青春映画のマスターピース

▼主人公プレストを演じたのは、自らプロデューサーも兼任したマーク・ウェバー。トッド・ソルソンス監督の『ストーリーテリング』（01年）で無気力なティーンエイジャーを、ウディ・アレン監督の『さよなら、さよならハリウッド』（02年）でアレン扮する映画



監督のトラッシュな息子役を演じ、さらに日本公開待機作として、ラース・フォン・トリアー脚本作『ディア・ウェンディー（原題）』（05年）、今年のカヌ国際映画祭でグランプリに輝いたジム・ジャームッシュ監督の『ブロークン・フラワーズ（原題）』（05年）がある。鬼才監督からのオファーが続く注目の新進俳優だ。シングル・マザーに育てられ、一時はホームレスも体験した彼は、ストリートの感触と苛酷さを肌で知っており、プレストの個性に確かなリアリティを与えている。監督は、これが長編デビュー作となるアダム・バラ・ラフ。弱冠23歳にして堂々とした語りのスキル、そしてその若さならではのみずみずしい感性を見せつけている。音楽はNYアンダーグラウンド・シーンのカリスマ的トラックメイカー、元カンパニー・フロウ、現デフィニティヴ・ジャックスのEL-Pが手掛けている。また、日本でも活躍しているグラフィティライターで『ワイルド・スタイル』で主演を務めた、リー・Qが特別出演するなど、ニューヨークのアンダーグラウンドなシーンの現在をリアルに描いている。

BOMB THE SYSTEM

- 2003/アメリカ/91分/ドルビーデジタル/カラー/アメリカンビスタ
- 監督・脚本：アダム・バラ・ラフ（初監督作品）
- 出演：マーク・ウェバー/ジャクリン・デ・サンティス/リー・Q
- 音楽：EL-P
- 提供：ナウオンメディア
- 共同配給：メディア・スーツ/ナウオンメディア

R-15

www.bombthesystem.jp

9月3日（土）より“反抗の”ロードショー

11:20 ▶ 1:20 ▶ 3:20 ▶ 5:20 ▶ 7:20

特別鑑賞券 ¥1,500（税込）絶賛発売中！

（当日一般 ¥1,800の処）

劇場窓口、SHIBUYA TSUTAYAにてお求めの方に

ポストカードをプレゼント！

● お得なセット券あり。詳しくは劇場までお問合せください。

シブヤ・03-3496-3203
シネマ・ツグイティ

- マークシティ4Fを道玄坂上方面へ進みラジオ局の裏手
- 道玄坂を上がり道玄坂上交差前交差点を左折、酒屋を左折
- 井の頭線渋谷駅西口下車、マークシティ沿い坂上

